

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 恵友会 児童発達支援センター いちご		
○保護者評価実施期間	年 12月 5日		年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	7年 11月 13日		7年 11月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	8年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアが必要な児・車いすユーザーの児など多様な児が同じ空間で活動できる。	車いすやバギーのための空間を確保し、安全に活動できるよう配慮する。 重度心身障害児であっても同じ空間で同じ活動を楽しめるよう環境を整える。	支援者の介助技術の向上のため研修を受ける。 支援学校との情報交換をし、本人理解と具体的な支援方法の幅を広げる。
2	個々の児の特性やその時の感情を大切に、支援する。	本人の発信や意思を尊重して個別に対応している。	表出できる手段を増やし、その児からの発信がスムーズにできるよう、コミュニケーションボードや50音表、感情シートなどなどのコミュニケーションツールを活用する。
3	保護者が迎えに来た際、丁寧な振り返りを行い、支援中の姿をわかりやすく伝え、保護者の悩みや家庭での様子を聞いている。	対面でタブレット端末を使用し、写真や動画で実際の支援の様子を見てもらい、わかりやすく振り返りを行っている。 保護者からも家庭での様子を聞いて支援の参考にしている。	保護者との信頼関係をさらに深めるために行事などを通じて足を運んでもらったり、身近な話題を通じて安心して話しやすい環境を整える。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフの経験不足	開設1年目で、これまでの職務経験は各自ありながらも、放デイの職務については経験不足である。	研修や学習会に参加し、知識や技術を高める。 他事業所のアドバイスを受け、支援内容を検討する。
2	地域交流の不足	地域内の情報が十分に把握できていない 地域の行事の多くが土日開催で参加できないことが多い	地域の情報を精査し、利用者が安心して参加できる方法や場所を確保する。 買い物体験・外食体験を通じて地域の生活空間に関われるよう取り組む。 地域のボランティアを積極的に受け入れる。
3	保護者支援・きょうだい支援の活動が実施されていない。	人間的・時間的余裕がない。 ノウハウが不足している。	支援方法の研修を通じて基礎知識や技術を身に付け、この事業所に合った支援計画を立て実施する。